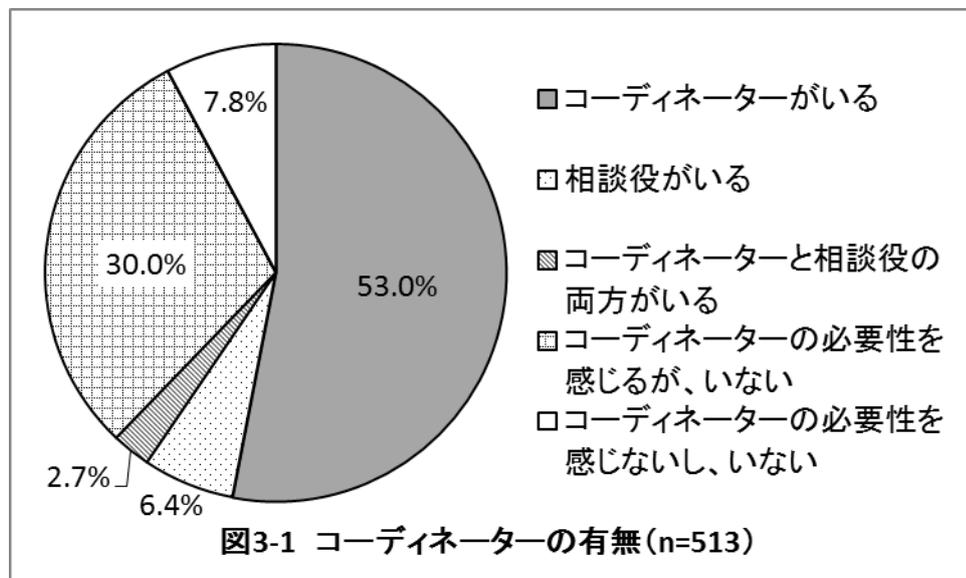


第2章 調査結果

1 アンケート調査における調査項目集計結果

(1) 地域連携教員

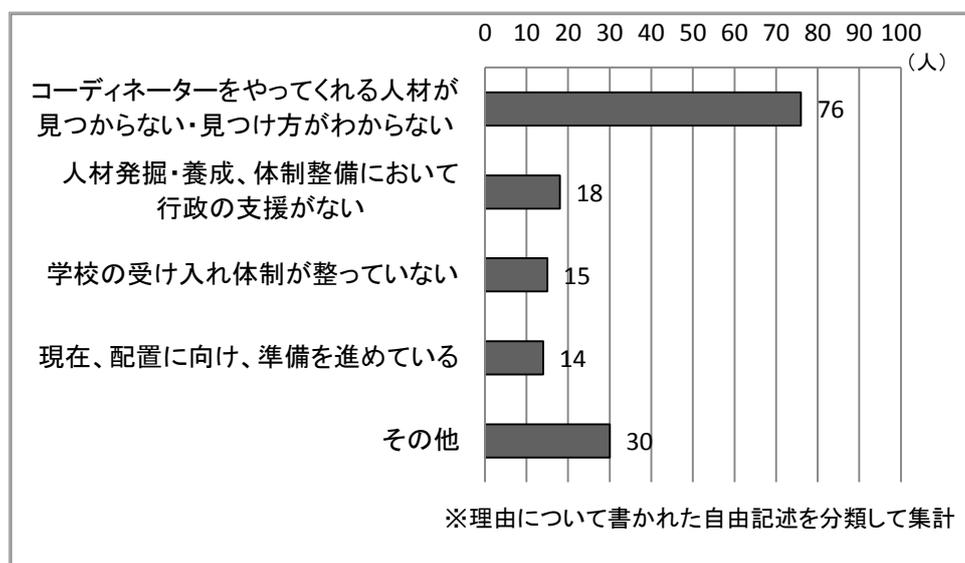
① コーディネーターの配置について



コーディネーターの有無について、「学校や教育委員会から正式に指名されているコーディネーターがいる」と回答した割合は53.0%で、「正式に指名されていないがコーディネーターの役割を果たしている相談役がいる」「コーディネーターと相談役の両方がある」と合わせると、全体の約62%の学校にコーディネーターの役割を担う人がいるということがわかった。

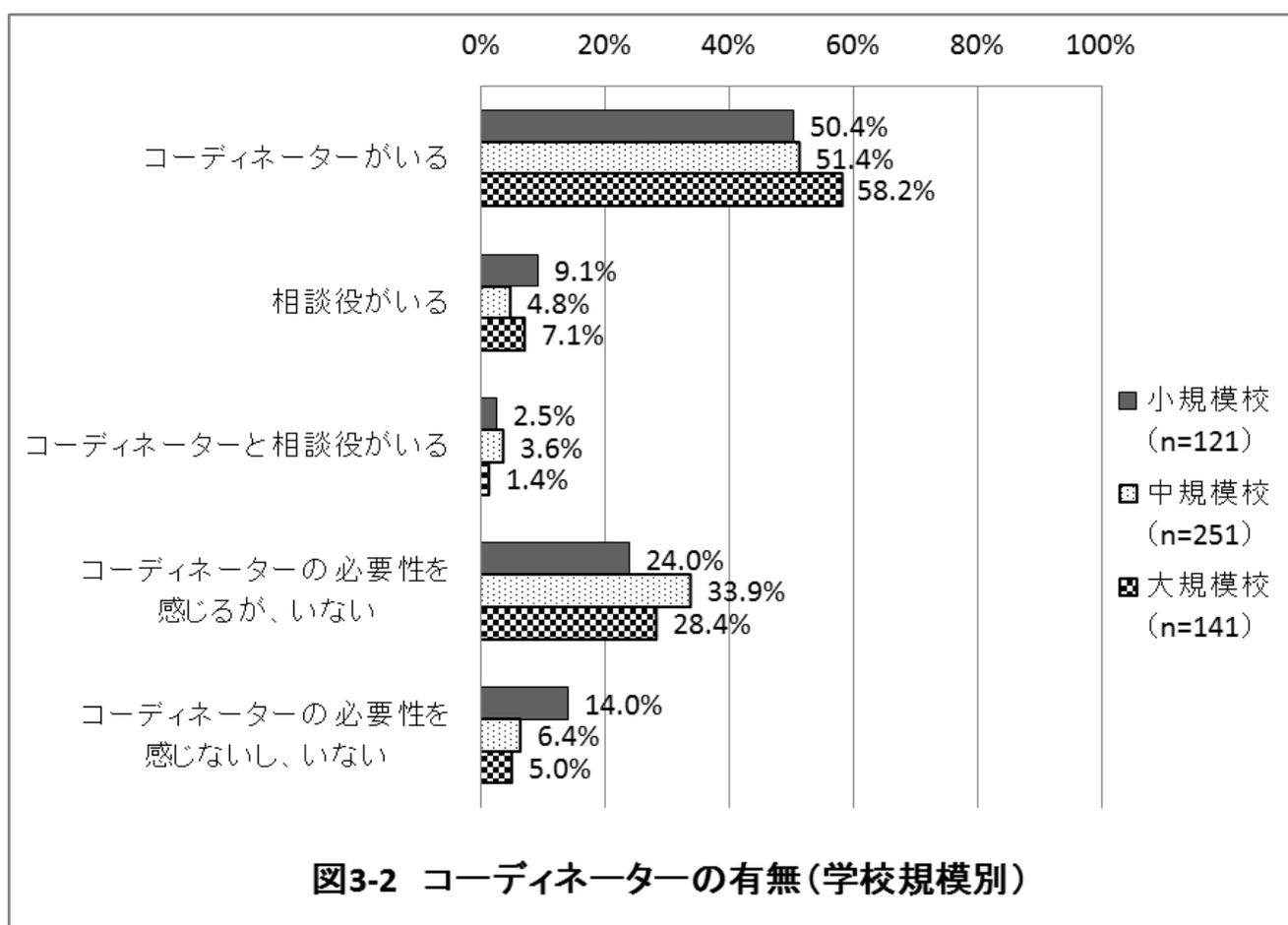
また、「コーディネーターがいない」と回答したのは全体の約38%であり、その内の約8割が「コーディネーターの必要性を感じるが、配置ができていない」との回答であった。その理由として、「コーディネーターをやってくれる人材が見つからない」が最も多くあげられており、学校が独自にコーディネーターを見つけることの難しさが明らかになった。【図3-1、資料1】

<資料1> コーディネーターの必要性を感じるが、配置ができていない理由(複数回答)



■主な記述内容

- ・コーディネーターを引き受けてくれる方が地域内・地区内にいない。いるかどうか分からない。
- ・学校では、コーディネーターの役割を果たしてくれる地域の人材を探すことが難しい。
- ・コーディネーターの見つけ方、配置の仕方等、具体的な方法がわからない。
- ・依頼する人材の検討をしているが、なかなか決まらない現状がある。
- ・コーディネーターという仕事をボランティアでお願いしにくい。また、コーディネーターとしての適性が不明である。
- ・行政から人材が配置されていないので、学校単独では配置が難しい。
- ・行政でコーディネーター養成に力を入れていない。
- ・行政側の推進不足及び行政側との連携不足。
- ・予算面や人材面の課題が大きい。

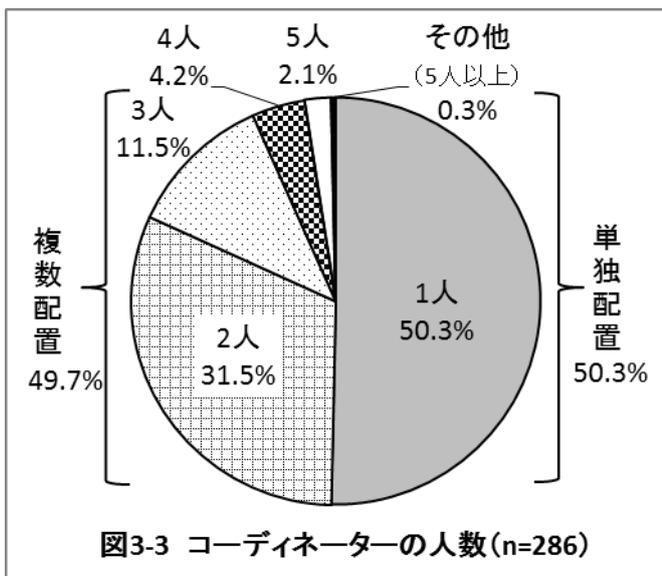


学校規模別の配置状況を見ると、特に小規模校において「コーディネーターの必要性を感じないし、配置もしていない」という回答が多く、中・大規模校との差が見られた。主な理由として、「学区内の人口が少なく、ボランティアの把握ができており、学校と地域との連携が図られている」、「学校支援ボランティアの協力体制が整っており、学校からの各種要望に対しては、特別なコーディネーターを通さずとも協力していただける」、「地域の方々が皆協力的であり、地域連携教員の連絡等で事足りてしまう」等があげられており、小規模校は学校と地域が近い関係にあるためボランティアが容易に把握でき、教員とボランティアが直接連絡調整をとりやすい環境にあることがわかった。【図 3-2、資料 2】

＜資料 2＞ コーディネーターの必要性を感じないし、配置もしていない理由

■小規模校からの記述内容

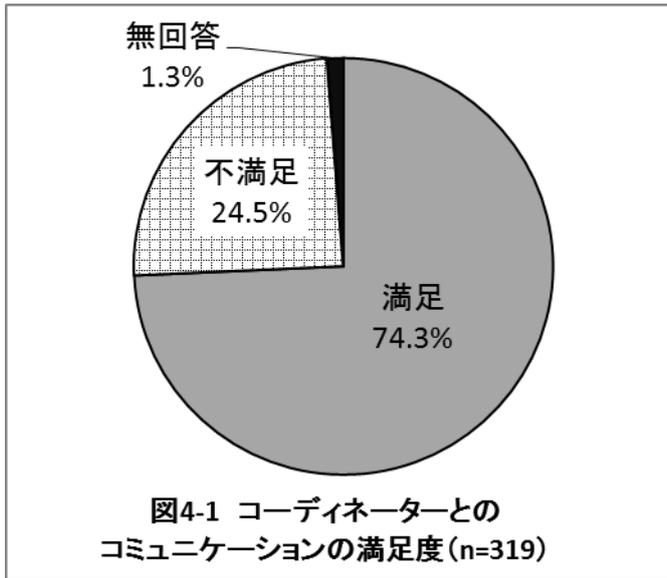
- ・コミュニティが非常に小さいので、保護者を通して関係が深いから。
- ・小規模校で地域密着型の学校なので、すぐに協力していただけるから。
- ・本校は小規模校で落ち着いた地域であり、PTA、育成会が非常に充実していて、教育活動に十分な貢献があるから。
- ・窓口を担うコーディネーターはいないが、協力してくれる住民、相談にのってくれる住民が多いから。
- ・地域の方々が皆協力的であり、地域連携教員の連絡等で事足りてしまうから。
- ・伝統的に地域と連携した行事や活動が多くあり、また、地域が協力的なので、コーディネーターがいなくても連携が取れているから。
- ・学校支援ボランティアの協力体制が整っており、学校からの各種要望に対しては、特別なコーディネーターを通さずとも協力していただけるから。
- ・学区内の人口が少なく、ボランティアの把握ができており、学校と地域との連携が図られているから。
- ・すでに地域人材のリストがあり、連携がスムーズに行われているから。（ただし、新しい人材の確保などを考えると、理想的にはコーディネーターがいた方がよい。）
- ・学校支援ボランティアがある程度固定化しており、学校とボランティアとが直接やり取りをしているから。
- ・小規模校なので教員の計画・準備で十分活動できるから。また、直接連絡を取り合った方が時間的に短くて済むから。
- ・活動内容に応じて直接、学校の意図を相手に相談した方が効率的だから。
- ・PTA会長がその役割を果たしているから。
- ・現在までの経緯により、地域連携教育は概ねできているから。
- ・現在、本校の地域人材活用は市教委が窓口になっている事業なので、必要性を感じないから。



コーディネーターの配置人数を見ると、最も多かった回答が「1人」で50.3%、次に「2人」で31.5%であった。また、コーディネーターが設置されている学校の半数近くで複数配置が進んでいることがわかった。【図 3-3】

※ここでは、「学校や教育委員会から指名されたコーディネーターがいる」と回答のあった286校のコーディネーターの人数についてまとめた。

② コーディネーターとのコミュニケーションについて



コーディネーターとのコミュニケーションについて、「満足している」と回答した割合は74.3%であった。その理由として、「定期的な打合せや学校訪問を通して十分なコミュニケーションが図れている」、「学校の状況や依頼する内容をよく理解してくれている」、「コーディネーターからの提案や相談を受けるなど、学校からだけでなく双方向の情報交換が図れている」、「コーディネーターが積極的、協力的に活動してくれる」といった主旨の回答が多く見られた。

また、「満足していない」と回答した理由として、「コーディネーターが設置されて間もなく、十分な話し合いがされていない」「コーディネーター

が忙しく、すぐに連絡を取ることができない」といった理由があげられている一方、「教頭・副校長、教務主任が窓口になっている」、「連絡を取り合う時間の確保が難しい」という回答も目立った。【図4-1、資料3】

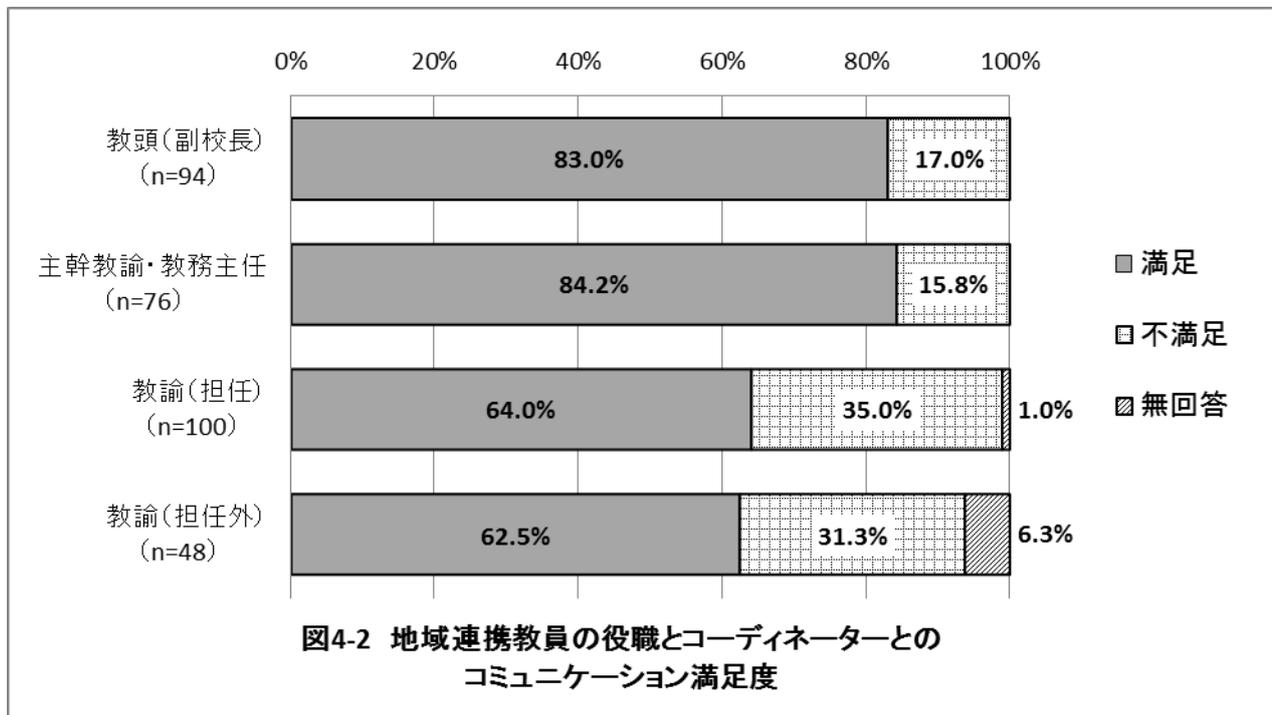
<資料3> コーディネーターとのコミュニケーションの満足度に関する主な記述内容

■「満足している」理由

- ・頻繁に来校いただき、密に連絡が取れている。
- ・定期的(週1回)にコーディネーターが学校を訪問し、コミュニケーションを図っている。
- ・コーディネーター会議を定期的に行っている。
- ・以前から学校に足を運び、教育活動に積極的に関わり、学校の実情もよく理解してくださっている。
- ・学校の状況を理解してくれ、依頼する内容をよく理解してくれている。
- ・学校教育活動に対して理解があり、とても協力的。互いの信頼関係も、十分構築できている。
- ・学校側からだけでなく、コーディネーターからも活動の申し出がある。
- ・いつでも足を運んで相談にのってくれる。同じ方向を向いて活動をしてくれる。
- ・活動後には反省や感想などの情報を交換している。
- ・地域コーディネーター自ら、地域情報の収集や学校との連携に関するはたらきかけを行っている。
- ・コーディネーターは学校のことをよく理解し、とても協力的でコミュニケーションも十分にとれている。
- ・コーディネーターがとても協力的で話しやすい人柄でもある。

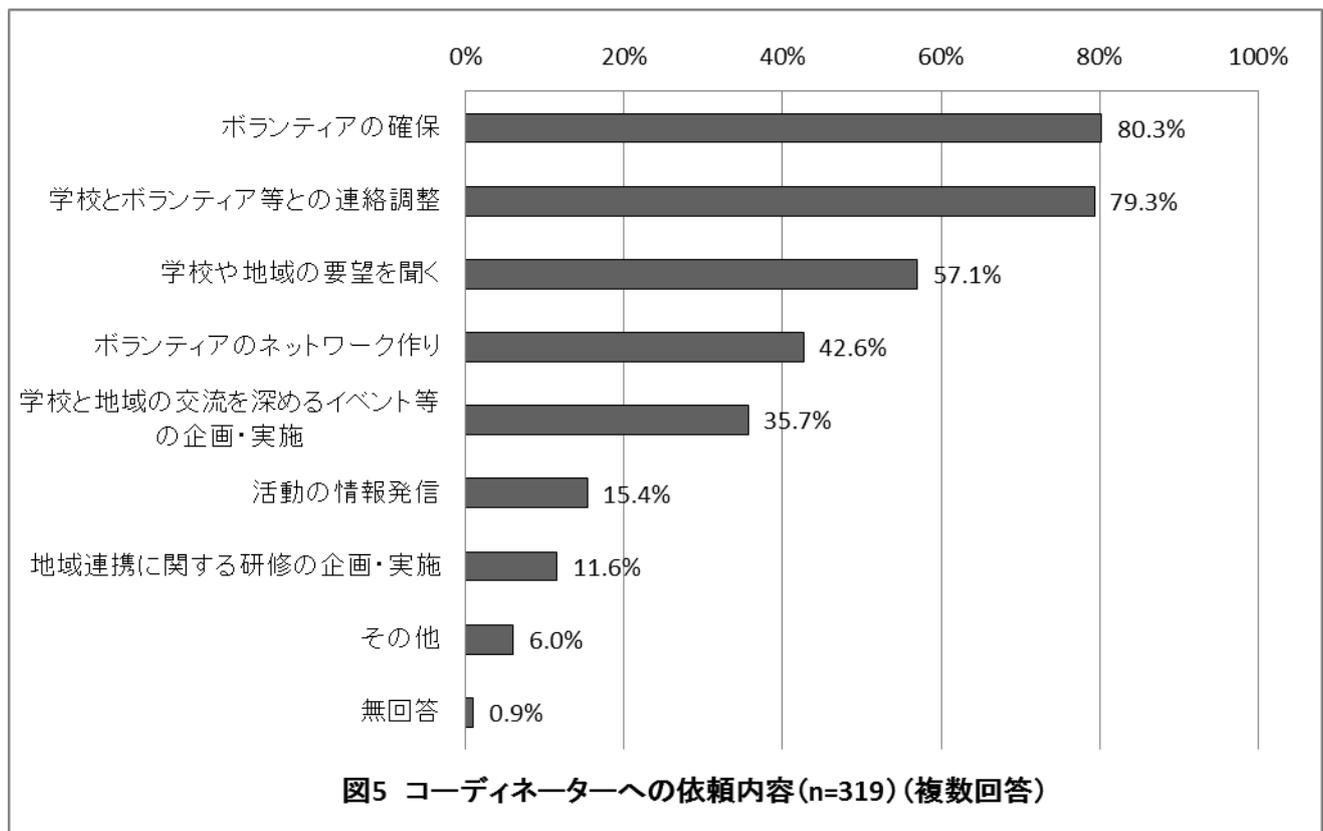
■「満足していない」理由

- ・コーディネーターが設置されて間もないことから、十分な話し合いがまだされていない。
- ・コーディネーターが決まったばかりで、実際の活動はこれからである。
- ・コーディネーターとの人間関係はできているが、本校での実務の連絡は副校長が窓口になっている。
- ・副校長と違い、地域連携担当とコーディネーターがコミュニケーションをとる時間や場が確保されていない。
- ・コーディネーターに仕事があるため、必要な時にすぐに連絡を取ることができない。
- ・コーディネーターが定職に就いてしまい、十分な情報提供ができない状況である。
- ・担任を持っているのでコミュニケーションの時間が取れない。
- ・地域連携関係以外の日々の学校業務が多忙のため、十分に連携を図る時間が取れない。



地域連携教員の役職とコーディネーターとのコミュニケーション満足度の関連を見ると、【図 4-2】のようになり、教頭・副校長、主幹教諭、教務主任よりも、教諭の方が「満足していない」割合が高いことがわかった。教諭は、学校側の窓口となっていないこと、時間を取ることが難しいことから、コーディネーターとコミュニケーションをとりにくい環境にあることが考えられる。

③ コーディネーターへの依頼内容



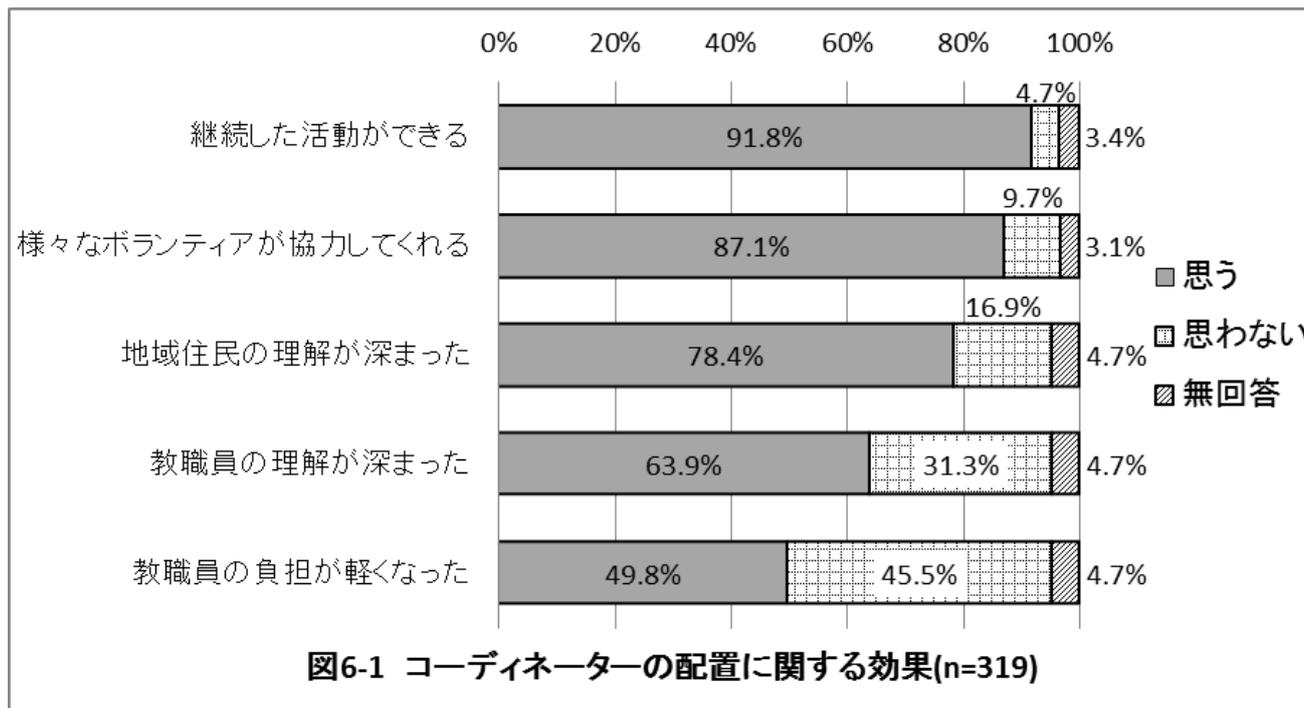
コーディネーターに依頼している内容について、「学校支援ボランティアを確保する」が 80.3%、「学校とボランティアや外部の団体・機関等との連絡調整を行う」が 79.3%と高い割合である。

一方、「学校の広報紙やホームページを通して情報を発信する」は 15.4%、「地域連携に関する研修を計画したり、実施したりする」は 11.6%と低く、教員や地域住民の理解を深め、組織的・効果的に活動を進めるための取組をコーディネーターに依頼したり、一緒に取り組んだりしている学校は少ない様子が見られた。

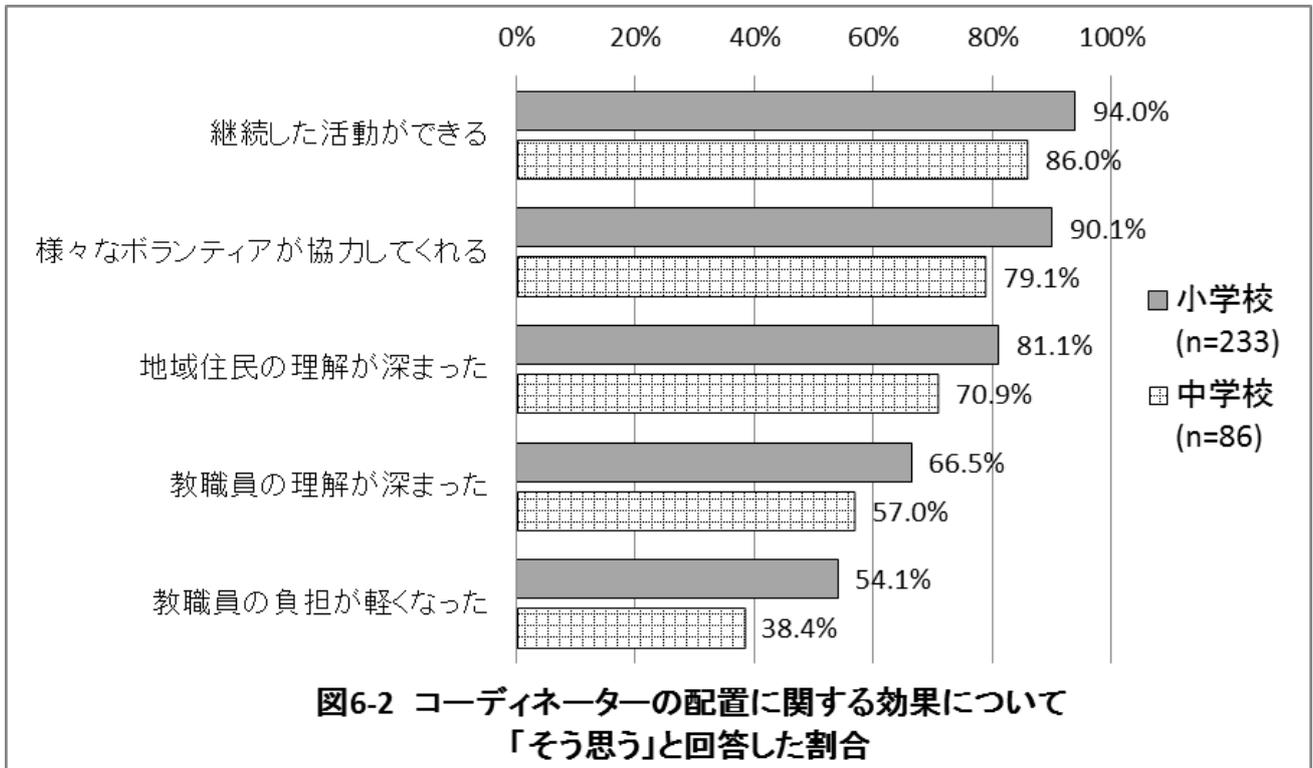
【図 5】

| | | |
|----------------------------|------------------|-------------------|
| ＜参考＞「その他」の回答 | | |
| ・ボランティアの月予定表を印刷し、ボランティアに配布 | ・地域協議会の運営業務、情報発信 | |
| ・回覧物の自治会への依頼 | ・地域連携活動経費の会計 | ・学校支援ボランティアとしての活動 |
| ・放課後子ども教室の講師 | ・小学校との連携の橋渡し役 | |
| ・地域の巡回指導や学校敷地内の緑化運動への協力 | | |

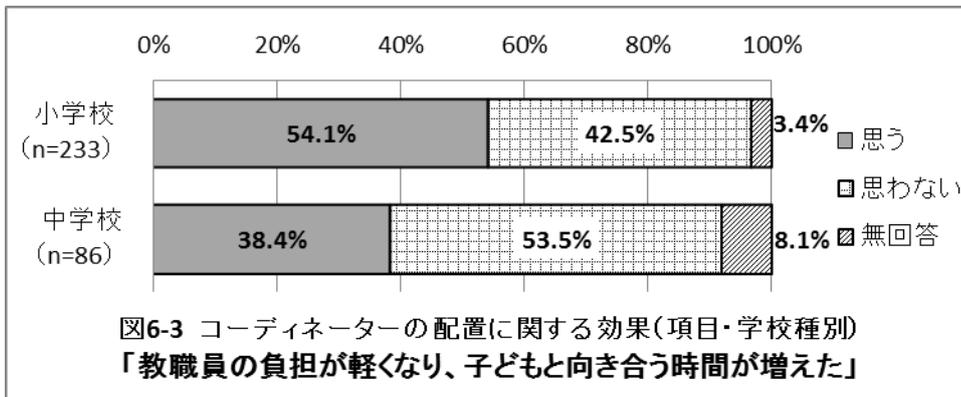
④ コーディネーターの配置に関する効果



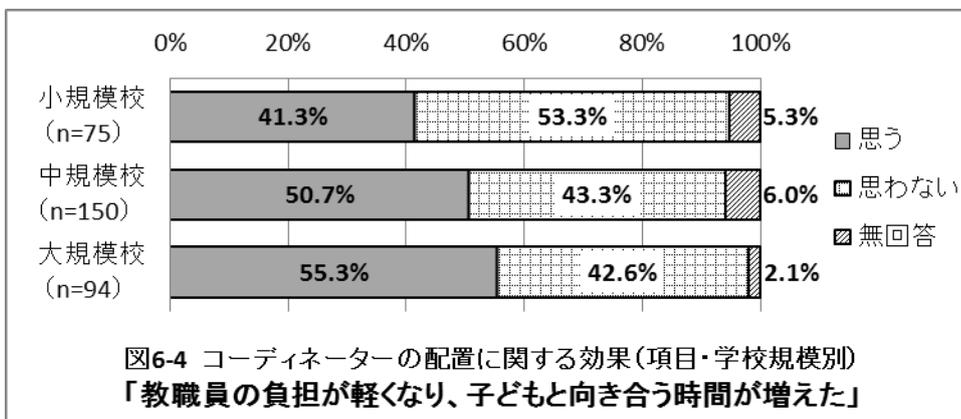
コーディネーターの配置に関する効果として図 6-1 にある 5 つの項目を聞いたところ、全体の 91.8%が「学校と地域のつなぎ役となり、継続した連携活動ができるようになった」について「そう思う」と回答した。また、「様々な人がボランティアとして協力してくれるようになった」、「地域住民の学校への理解が深まった」についても、「そう思う」と回答した割合がそれぞれ 87.1%、78.4%と高くなった。一方、「教職員の負担が軽くなり、子どもと向き合う時間が増えた」について「そう思う」と回答した割合は 49.8%にとどまった。【図 6-1】



コーディネーターの配置に関する効果について学校種別に見てみると、小学校の方がどの項目においても中学校より効果を感じていることがわかった。【図 6-2】

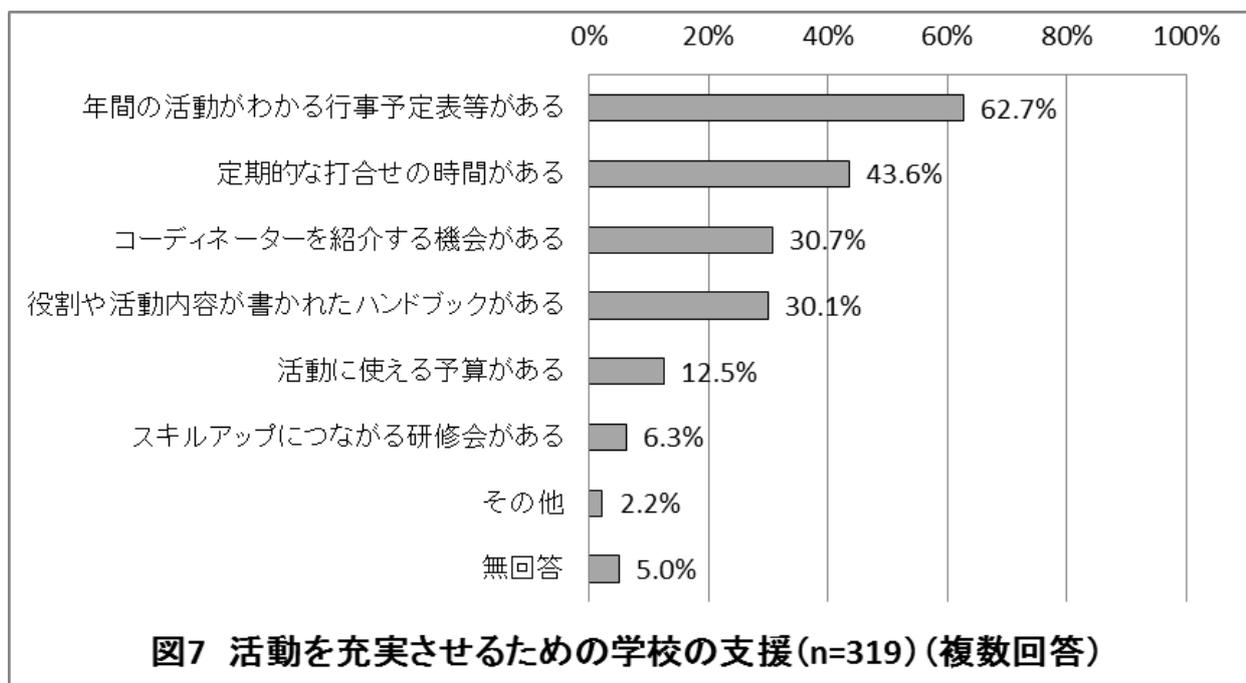


「教職員の負担が軽くなり、子どもと向き合う時間が増えた」について学校種別に見ると、中学校より小学校の方が「そう思う」と感じた割合が15.7ポイント高くなった。【図 6-3】



また、「教職員の負担が軽くなり、子どもと向き合う時間が増えた」について学校規模別に見ると、「そう思う」と感じた割合は学校規模が大きくなるにつれて高くなり、大規模校で55.3%であった。小規模校は41.3%であり、大規模校と14ポイントの差があった。【図 6-4】

⑤ コーディネーターの活動を充実させるための支援体制

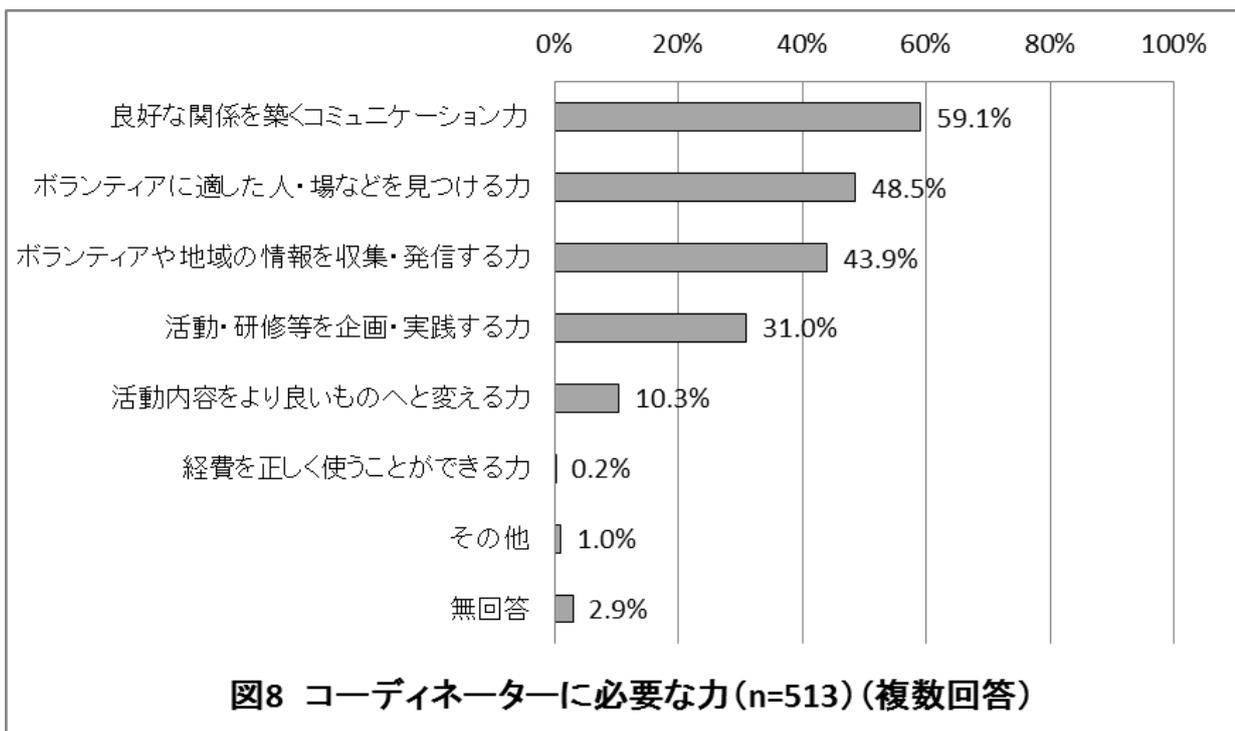


コーディネーターの活動が充実するために、学校ではどのような支援体制が必要かについて聞いたところ、「年間の活動がわかりやすくなるような、学校支援ボランティアに関する行事予定表などを作成する」が62.7%と最も高くなった。【図7】

＜参考＞「その他」の回答

- ・コーディネーターやボランティアの部屋(教室)の確保
- ・コーディネーターの複数配置による負担軽減とスムーズな引継ぎ

⑥ コーディネーターに必要な力



地域連携を進める上でコーディネーターに必要な能力やスキルについて聞いたところ、「教員やボランティアと良好な関係を築くコミュニケーション力」が59.1%と最も高くなった。【図8】

＜参考＞「その他」の回答

- ・積極性(先生は地域に対して受け身な人が多いので)
- ・地域連携の必要性を感じ、意欲をもって取り組もうとする力
- ・学校教育及び学校生活に精通した上で、様々な提案ができる力

⑦ その他、コーディネーターの活動・配置等に関する意見

コーディネーターの必要性について、既に配置されている学校の地域連携教員からは、学校支援ボランティア活動の実施を通してコーディネーターの効果を感じていることから、必要であるとの意見が多く出された。「コーディネーターが協力的で、よく活動してくれるのでとても助かっている」という感謝の声もたくさん聞かれた。また、配置されていない学校の地域連携教員からも、「活動を円滑に行うためにコーディネーターの必要性を感じる」という意見が出された。一方、地域と近い関係にあたり、学校支援ボランティアが自主的に活動できたりする学校の地域連携教員からは、コーディネーターの必要性を感じないという意見も聞かれた。

コーディネーターが配置されていない学校の地域連携教員からは、「コーディネーターを学校独自で見つけることが難しい」との意見が多くあげられた。特に目立った意見は、「コーディネーターの配置を行政が主となり制度として進めてほしい」、「コーディネーターになり得る人を紹介してほしい」、「研修でコーディネーターを養成してほしい」等、行政からの支援がほしいという意見であった。

コーディネーター配置上の課題として、コーディネーターの負担が大きいこと、次にコーディネーターを引き受けてくれる後継者が見つからないことが多くあげられた。このことを踏まえ、コーディネーターの複数名配置を希望する意見も多くあげられた。既に複数名が配置されている学校の地域連携教員からは、「複数名のコーディネーターがいることで活動が充実し、円滑に進めることができている」との意見もあった。また、コーディネーターの活動頻度や活動内容を鑑み、「ある程度の予算が必要である」との意見も聞かれた。

コーディネーターにふさわしい人物像については、学校教育や学校の実情を理解してくださる方という意見が最も多かった。

また、地域連携教員の課題として、「業務が忙しく、なかなか地域連携まで取り組めない」、「他の分掌を担当する教員との役割分担が難しい」等、学校の体制を整えることについての意見があげられた。

ここでは、主な記述内容のみ掲載する。【資料 4】

※詳細はP65「学校支援のためのコーディネーターに関する調査(地域連携教員用) 問 7 記述内容一覧」参照)

＜資料 4＞ その他、コーディネーターの活動・配置などについての意見に関する主な記述内容

- ・地域連携を推進するにあたり、コーディネーターの配置は不可欠だと思われる。
- ・地域コーディネーターのお陰で、様々な方がボランティアとして学校に来てくれ、教育活動の充実が図れた。学校の要望に快く応えてくれてありがたい。
- ・本校では、コーディネーターが配置されているため、地域連携に関する活動が円滑に実施されていると思う。
- ・本地区にも地域コーディネーターがいてくれるとありがたい。
- ・今後社会の様々なニーズと変化に対応するには、地域をまとめるコーディネーターの必要性をととも感じている。
- ・各学校の地域の実情に応じてコーディネーターを設置したり、しなかったりすればよいのではないかと。一律にコーディネーターを配置したからといってうまく機能するとは限らないのではないかとと思う。

- ・町の教育委員会や生涯学習課でいろいろ手配してくださるので、あえてコーディネーターの必要性を感じない。
- ・学校が独自でコーディネーターを見つけていくことは、現実的に難しい状況だ。今後、県や市と協力し適任者を探していく必要性は感じるが、地域連携教員の力では限界がある。
- ・男性・女性各1名ずつコーディネーターを行政(生涯学習課)で確保して欲しい。学校が探するのは、とても大変である。
- ・行政が予算化等してコーディネーターを養成し、各学校に配置できれば一歩先に進むと思われる。
- ・本校のコーディネーターはとても協力的である。その分、コーディネーターの負担も大きいように感じる。また、次期のコーディネーターを探すことが難しい。
- ・現在のコーディネーターは3年目になるが、今後継続してくれるかは未定。コーディネーターを新たに見つけるのが大変。
- ・本校のコーディネーターは、よくやってくれている。ただ、本人は言っていないが、負担を大きく感じる。コーディネーターは複数人いると都合がよいと思う。
- ・3校が統合し、それぞれの地区からコーディネーターを1名ずつたてることができたので、本当によかった。その地域の歴史・風土をよく知る方々がなってくれ、総合的な学習の時間もスムーズに実施できるようになった。
- ・コーディネーターは基本的にはボランティアであるが、活動の活性化のためには市全体として謝金等を予算化してもらえるとありがたい。
- ・コーディネーターが地域にしっかりとした人脈をもち、学校の要望に対して前向きに対応してくれるので、地域の人材を大いに活用することができる。
- ・コーディネーターも仕事をしている。私も担任しながら地域連携教員をしているので、お互い忙しく、なかなか打合せをする時間がない。
- ・教頭・学年主任・地域連携職員・コーディネーターの役割分担が難しいと感じる。